

# 2022年度一般入学試験問題

## 国語

(2月8日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は15ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
  - ① 受験番号欄  
受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
  - ② 氏名欄  
氏名とフリガナを記入してください。
4. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10
----

と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。  
(例)  

10	◎	○	○	○	○
----	---	---	---	---	---
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。





次の文章を読んで、問一〜八に答えなさい。

危機のとき、人は全身で生きようとする。当然ながら、こうしたときは「あたま」にだけ呼びかけるような言葉には強い抵抗を感じる。心の痛みを無視した言説が受け入れ難くなる。身体的な生命を包む「いのち」が見過ごされているように感じるのかもしれない。

だが、今、昨今の危機のとき、私たちの「情」や「いのち」を無視した言葉が、

X

舞い込んでくることはなかっただろうか。

この数年間、心のどこかにウィリアム・ブレイク（一七五七〜一八二七）がいる。詩人であり、画家、そして何よりも神秘家でもあった彼をめぐって考えようとするとき、残された言葉や描かれた絵を見ているだけでは十分ではない。彼が感じていた、もう一つの世界を自分もまた感じていなくてはならない。

彼が生きた世界を私が追体験する、というよりも、私自身が自己の経験としてそれを深めて見なくてはならない。【①】  
あるときブレイクは知人に、自分の作品がどのように生まれてくるかをめぐってこう語ったという。

私はそれ等の作品を私のものだと呼ぶが、然し彼等が私のものでない事をも知つてゐる。丁度ミルトンが、曙が東の空を紫に染める頃、美神が彼の眠りを訪れ、彼を目覚まし、彼に歌を作らせたと言つたのと同じ心である。

（「ブレイクの言葉」柳宗悦訳『柳宗悦全集 第五卷』筑摩書房）

柳宗悦は、哲学者であり、民藝運動を牽引した人物だが、それ以前に傑出した批評家だった。日本でブレイクの評伝を書いた最初の人であり、実存的経験に裏打ちされた言葉でこの詩人を内側から論じ得た稀有なる人物だった。ブレイク伝やそれにまつわる論考は、彼の初期を代表する作品だといつてよい。

『失樂園』の作者ミルトンにとつてだけでなく、ブレイクにも、あるいはリルケやユングにとつても「書く」という創造の営みは、自己の努力だけで行われ得るものではなかった。それは現実の他者と、不可視な他者たちとの協同の営みだった。その関係における信頼が深ければ深いだけ、彼らがそれを「自分」の作品であると主張するのにはためらいを覚えるのは自然なことだろう。【②】

ブレイク研究の泰斗キャスリーン・レインの『ブレイクと古代』（吉村正和訳）を読んでいたら、現代の言説の在り方を根底からクツガエすような言葉に出会った。レインはブレイクの研究者であり、アイルランドの国民詩人——ノーベル文学賞も受賞している——W・B・イェイツ（一八六五〜

一九三九)の研究者でもある。レインはイエイツを「ブレイクの最大の弟子であり、彼の秘教的な『体系』の最初の註釈者<sup>ちゆうしやく</sup>」であるといい、「世界では、魂が知性に反抗して立ちあがるときが始まっている」という言葉を引いている。

生没年から分かるようにレインがここでいう「弟子」は、読書の地平における師弟関係をいう。読書の世界の深みでは、時代の齟齬<sup>そご</sup>は問題にならないことはセネカやデカルトの言葉にある通りだ。

もちろん、イエイツが考えているのは——レインもまた——俗にいう反知性主義のようなものではない。西洋古代と東洋の思想にも通じていた二人は、「知性」——ラテン語の *intellegentia*——の原意が、感覚的なものの彼方<sup>かなた</sup>にあるものを認識することであることを知りながら、「たましい」を忘れた現代の知性 (intellect) に Y ののである。

知のはたらきを無視するのは愚劣である。だが、知の力だけで生きていこうとするのも拙劣だというのだろう。

ある意味で現代は、知性と反知性がともに暴走している時代だ。イエイツは、その狭間<sup>はざま</sup>を行こうとした。【③】

生きるとは「透明な軌道」を進むことだと宮澤賢治は詩に書いたことがある（「小岩井農場」『宮沢賢治詩集』新潮文庫）。

賢治がいう「軌道」とイエイツが歩こうとした道は、同質のものだ。人は誰も同じ道を歩くことはできない。そして、その道は自分以外の誰にも見えない「透明」なものなのである。【④】

不可視な道を照らせるのは叡知<sup>えいち</sup>の言葉、より精確には叡知のコトバである。コトバが燈火<sup>とうし</sup>になる。さらにいえばコトバだけが燈火たり得る。

どんなに多くの金銭もあるいは権力も、道の固有性を前にしたときには無力に等しい。そう考えているとき、どこからともなく心に浮かんできたのは、ローマ五賢帝の一人であり、ストア派の哲人でもあったマルクス・アウレリウスの『自省録』にある一節である。

もともと高貴な人生を生きるに必要な力は魂の中にそなわっている。ただしそれはどうでもいい事柄にたいして無関心であることを条件とする。

（マルクス・アウレリウス『自省録』神谷美恵子訳、岩波文庫）

叡知は、すでに万人に内在している。だが、それを開花させるには、「どうでもいい事柄」を見過ごすことが条件になる。この哲人皇帝がいう「どうでもいい事柄」とは、己<sup>おの</sup>の利益だけにとらわれることにほかならない。魂は、無私の精神という土壌においてこそ開花する、というのである。

別ないい方をすれば、叡知は、利己を含む土には根付かない。そこには利他という養分が不可欠なだろう。【⑤】

現代の知性は、必ずしも利他と結びつくとは限らない。いつも競争にさらされているからだ。他者から抜きん出るために知<sup>ち</sup>をミガク<sup>イ</sup>ということが、

どこかでスィシヨウウされている。空想ではない。それが大学の教壇に立って、ほどなく覚えた違和感だった。

大学とは入試を最後に競争という「競技場」から、ユングの言葉を借りれば個別化 (individuation) という地平に出るために学ぶ場だと思っていた。だが、現実が違う。方法の違う「競争」の号令がどこからともなく響いてくるのである。

(若松英輔『読書のちから』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

(注) キャスリーン・レイン——イギリスの詩人、評論家。

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

1、イが 2、ウが 3。

- ア クツガエす
- ① ひそかにフクセンを張る
  - ② フクスイ盆に返らず
  - ③ シフクを肥やす
  - ④ 文化財をシユウフクする
  - ⑤ 古い写真をフクシャする

イ ミガク

- ① 百戦レンマの勇者
- ② マゴコロを込めた贈物
- ③ アクマに魂を売り渡す
- ④ 貿易マサツが起こる
- ⑤ マスイをかける

- ウ スィシヨウ
- ① シヨウゲン台に立つ
  - ② 事後にシヨウダクを得る
  - ③ 優勝者をヒヨウシヨウする
  - ④ 負債をシヨウキヤクする
  - ⑤ シヨウガク金をもらう

問二 空欄

X

に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

4

- (a) 二転三転して
- (b) 四方八方から
- (c) 十年一日のごとく
- (d) 三々五々に
- (e) 八面六臂<sup>び</sup>に

問三

傍線部A「自分の作品がどのように生まれてくるか」とあるが、これに対して筆者はどのように考えているのか。その説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

5

- (a) 作品は作者が体験したことをつづっているが、その体験は運命に導かれたものであるので、作品は偶然に生み出されたものであると考えている。
- (b) 近代になって作品は作者がひとりで作るようになっていったが、近代以前は何人も共同作業の中から生み出されていったと考えている。
- (c) 作者は自らのあたま、つまり知性を働かせて作品を書いていると思っているが、実は知性ではなく感性が生み出したものであると考えている。
- (d) もちろん作品は作者のものではあるのだが、他者たちや作者を超越した何者かが、作者を媒体として、作品を生み出していったと考えている。
- (e) 書くという創造的な営みは自分の努力だけではできず、神から与えられた天賦の才があつてこそ生みだすことができるものであると考えている。

問四

傍線部B「ブレイクの最大の弟子」とあるが、これはどのような意味なのか。その説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

6

- (a) はるか昔に亡くなったブレイクは先見の明があつたので、イエイツは現代が抱えている様々な問題への答えをブレイクに求めていたという意味。
- (b) イエイツは薄っぺらな現代の書物にとっても違和感を覚えており、ブレイクの知の力のこもった、いにしへの書物に心が癒されていたという意味。
- (c) イエイツはブレイクに面と向かって教えを受けることはできなかったが、ブレイクの書物の世界に感化され、私淑するようになったという意味。
- (d) イエイツはブレイクの難解な内容を持った『体系』をはじめ論理的に解明した研究者であり、ブレイクの考え方に心酔していたという意味。
- (e) ブレイクは十八～十九世紀に生きていた人物だが、イエイツは同時代を生きているように感じ、時代のずれを感じることはなかったという意味。

問五 空欄

Y

に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

7。

- (a) 反旗を翻したひるがえ
- (b) 考察を加えた
- (c) 薫陶を受けた
- (d) 血道を上げた
- (e) 引導を渡した

問六

傍線部C「不可視な道を照らせるのは叡知の言葉、より精確には叡知のコトバである」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

8。

- (a) もっとも幸せな人生を送るには何が必要かを教えてくれるのは、現代人の言葉ではなく古代の西洋の哲人のコトバであるということ。
- (b) 自分だけではなく誰もが歩むべき道を教えてくれるのは、普遍的真理を追究する、魂から発せられた心に響くコトバであるということ。
- (c) 自分がどのように生きていくべきかを教えてくれるのは、己にとらわれることなく、理性に基づいた客観的なコトバであるということ。
- (d) 金銭でも権力でもない人生が目的とすべきものを教えてくれるのは、誰もが心の中に持っている当たり前のコトバであるということ。
- (e) 誰のものでもない自分だけの生き方を教えてくれるのは、エゴイズムに陥ることなく、他者を視野に入れたコトバであるということ。



問七 本文中には次の文が脱落している。この文が入る箇所として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

い。解答番号は、9。

東洋の言葉でいえば、真の意味での中庸の道を歩こうとしているのである。

- (a) ①
- (b) ②
- (c) ③
- (d) ④
- (e) ⑤

問八 本文の表題として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、10。

- (a) 反知性主義の時代
- (b) たましいの反抗
- (c) 教養としての知
- (d) 利己と利他の葛藤
- (e) 先哲に教えを乞う

次の文章を読んで、問一〜六に答えなさい。

ファッションのつかみどころのなさは、個人的な行為を指す言葉でありながら、一方で、流行という社会現象を示す言葉としても使われるところに起因している。ファッションについて学術的な文章が書かれるようになって以来、こういった語義の曖昧さをめぐって、ファッションとは行為なのか現象なのかという議論が、常に繰り返されてきた。言い換えると、ファッションとは人間の主体的な行為を指す言葉なのか、それとも社会全体の意思を反映した現象なのか、という問いである。

ファッション研究のはじまりがどこにあるのかは諸説分かれるが、一九世紀の二人の学者、ガブリエル・タルドとギュスターヴ・ル・ボンが、その後のファッション研究の礎を築いたとすることに対して異論は少ないだろう。この二人はかたや「模倣」という比喩を用いて、かたや「感染」という比喩を用いて、ファッションを説明しようとした。

模倣は本人の意志がなければできないことであり、感染は本人の意志とは無関係に巻き込まれてしまうことだ。つまり、みんなが真似するから流行が起こるといふ説と、知らぬ間に同調してしまうといふ説の二つが、近代社会のはじまりのファッションが現れた時期からあったのだ。行為か現象かという議論は、この時からすでにはじまっている。

この二つの考え方が並び立つのは、特に不思議なことではない。というのも、この二つの考えは、近代における個人とは何かについて理解しようとするときに起こる対立と同じだからだ。すなわち、人間には「主体性」と呼べるような何かがあるはずだという考えと、「主体性」と思っているそれは社会の構造によって決定されたもので、人間には個性や意思なるものはないという考えの対立だ。それは、人間は各人の絶えざる努力によって人間になるとする **X** と、人間の行動や感情は社会のあり方とその人の社会的位置によって決まってしまうとする構造主義をめぐる、思想的な対立と同じでもある。

**Y**、人間はごく私的な事柄についてひっそりと考える時ですら、言語という社会的に共有された道具を使わないことには、何も考えることができない。どれほど芸術性が高く個性的な文学作品があったとしても、それが書かれた言語まで作者の発明であったとしたら、誰も感情を移入して読むことなどできないだろう。そして、多くの人が指摘しているように、言語は個人の考え方を支配する力を持っている。あらゆる考え方は、言語によって規定されており、その枠の中でしかオリジナリティを持つことはできない。言語という借り物なしには何もできないのに、そこに「主体性」なるものを認めていいのか、という疑問はもつともである。しかしそうは言っても、実はあなたには主体性などまったく無いのですと言われて、いったい誰が納得しようか。

人間は、言語によって自分を語るのと同様に、衣服や装飾品によっても自分を語る。小説のような作品や、日々のおしゃべりと同じように、ファッションは、主体的な行為としても、社会に共有された考え方が個人を通してハッロした現象としても捉えることができる。ファッションを考えることは、言語を考えることと同様に、私たちひとりひとりに、個性と呼べるような特殊性があるのか、主体性と呼べるような自由な意思と行動の力があるのかを問うことでもある。

一人の人間が、その日に着ている服には、さまざまな社会的な力が作用している。私たちの社会の常識から考えると、人は、性別と年齢に従って服を選ぶだろう。入社二年目を迎えるOLが、これから先輩になる自分の気を引き締めようと、男性用のスーツを買うことは検討しないし、家族揃っての食事に出かける時に、仲の良さを確認するために、妻とお揃いのスカート<sup>B</sup>を穿こうと手を伸ばす男性もいないだろう。

私たちは、それを主体的な選択だと思いついてはいるが、その人の所属する社会が、どのような政治的、経済的な特徴を持っているかによって、選ぶ服は大きく変わってくる。国の経済規模や、その国の社会が保有している技術レベルによって、手に入れられる服も違う。政治と宗教が分離しているかどうかや、女性の社会的地位、伝統的な習慣との距離によっても違うだろうし、その伝統的な習慣を形作るのに大きな役割を担った気候やシヨクセイ<sup>イ</sup>などの、地理的な条件によっても違ってくる。さらには、その社会のマスメディアやパーソナルメディアのあり方によっても違いは出てくる。

**Z** 同じ社会の中においても、その人の社会的地位や収入によって、手に取る服は異なるだろう。

しかし、だからといって、人間が素直に社会から期待される役回りを演じ、それにふさわしい服を選ぶとも限らない。資産や地位や年齢や性別に見合わなくても、その人が自分の生きていく信条にふさわしいと考える服を、社会的圧力に逆らって選択するのは、ありえる話だ。それを主体的な行為と呼ぶかは別にしても、少なくとも、自分に何がふさわしいのかと考え悩むことを、主体的な行為ではないと断言することはできないだろう。

(井上雅人『ファッションの哲学』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア、イと同じ漢字を含むものを、次の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 12。

- |  |   |
|--|---|
| <p>ア ハツロ</p> <p>(a) ヨウコウロを建設する</p> <p>(b) フロをわかす</p> <p>(c) ワイロを贈る</p> <p>(d) 不満をロコツに表す</p> <p>(e) リロ整然と話す</p> | <p>イ ショクセイ</p> <p>(a) ショクヒを節約する</p> <p>(b) ゴシヨクを訂正する</p> <p>(c) ショクシユを問わない</p> <p>(d) ヨウシヨクが衰える</p> <p>(e) カンシヨクを確かめる</p> |
|--|---|

問二 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 13。

- (a) 実存主義
- (b) 利己主義
- (c) 原理主義
- (d) 功利主義
- (e) 民主主義

問三 空欄 Y ・ Z に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちからそれぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。

- 解答番号は、Yが 14、Zが 15。
- (a) だから
  - (b) あるいは
  - (c) つまり
  - (d) しかし
  - (e) 確かに

問四 傍線部A「言語という借り物なしには何もできない」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうち

から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

16。

- (a) 独創的な言語などは存在しないので、陳腐な言語を用いることによって自らの個性を表現するしかないということ。
- (b) 先人や同時代の人たちが作り上げた言語を用いることによって、はじめて自己を表現することができるということ。
- (c) 言語を用いることによってしか自己を表現することができず、人間に主体性など認めることはできないということ。
- (d) 社会の中でみんなが共有している言語を媒体としながら、個性的な文学作品を創作しなくてはならないということ。
- (e) 自分が用いることができるのは、自分が属している共同体の言語だけで、他者の共同体の言語ではないということ。

問五 傍線部B「妻とお揃いのスカートを穿こうと手を伸ばす男性もいないだろう」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次

の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

17。

- (a) 男性がズボンではなくスカートを穿いてしまうと、自分らしさを表現することができなくなってしまふから。
- (b) 家族揃って食事に出かけるときには、ズボンを穿いてスカートを穿かないと男性が自らの意志で判断したから。
- (c) 妻と出かけるときにお揃いのスカートを穿くことは、男性として夫として、絶対に許されることではないから。
- (d) スカートは女性が穿くもので男性が穿くものではないと、私たちの社会の常識として決まっているから。
- (e) 妻とお揃いのスカートではなく、もっと自分の個性の発揮できる服装を選び、外出したいと男性は思うから。

問六 本文の内容と合致しているものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

18。

- (a) 資産や地位がある人は、社会的な圧力に同調することなく、自分の着用したい服を自由に着ることができる。
- (b) 社会的な事柄はもちろんのこと、個人的な事柄について発言するときにも、公用語を用いなければならない。
- (c) 属している社会や時代により着るべき服は決まっており、誰もがみんな同じ服を着用することになっている。
- (d) 近代になって個人主義が台頭したことで、個性を表現するためのファッションが注目を浴びるようになった。
- (e) 何を着るかは社会的な力が作用するが、かといってそれが主体的な行為ではないとも言いきれない面がある。

次の文章を読んで、問一～六に答えなさい。

先日、ひさしぶりでヘレン・ケラーの映画『奇跡の人』を見ました。一九六二年公開の映画ですから、今から五十三年以上前に作られたということになります。見た人もいるかもしれませんが、話には聞いたこともあるかもしれませんが。この映画の印象的な場面は、なんとと言っても、耳が聞こえず、目も見えず、口もきけないヘレンが、サリバン先生と出会い、最後にもものは名まえがある、ということを理解するところです。ウォーターと言おうとして、ウオ、ウオ、と言い出すところです。そこもほんとうに感動的なのですが、今回、べつのがとても印象に残りました。

サリバンさんと出会う前の彼女は、だれともコミュニケーションがとれない、閉ざされた世界にいたわけですから、まるで動物と同じで、いえ、動物も、群れのなかでマナーのようなものを教わって、そのなかのルールに従って行動するけれども、彼女は、そういう、人と生きる上でのルールのようなものを教わる事ができなかった。自分の思うようにならないとかんしゃくを起こして手が付けられなくなるので、みな、彼女を刺激しないように接していた。食事のときに椅子に座らないのはもちろん、歩き回って好き勝手に皿から手づかみで好きなものを取って食べるようなことをしていた。彼女に対する愛情と哀れみとアキラめが、結局彼女をだめにするんだと言って、サリバン女史は、二人きりで食堂にこもり、何時間もの凄まじい取っ組み合いの末、とうとう彼女に椅子に座ってスプーンを持たせ、ナプキンをたたむことをさせるのに成功した。はらはらしながら外で待っていた母親は、彼女がナプキンをたたんだ、と聞いて、感動のあまり涙ぐみます。あの子が、ナプキンを、たたんだ、と、何回か繰り返し口にします。ここもほんとうに感動的でした。母親のそれまでの不安と悲しみまで一度に押し寄せ、ああ、このひとは、たった一人で社会を相手に我が子を守ろうと頑張ってきたのだな、とわかるのです。ナプキンをたたむなんて、言ってみれば、どうでもいいようなことです。けれど、今まで獣の世界にいた我が子が、ここで、自分たちの群れに帰ってきた、そんな感動が、伝わってくるんですね。群れの一員としてやっていけるかもしれない、という微かな光が見えた瞬間でした。群れに入れない、入れる、それがこんなに絶望と希望を与えるものだという事。理屈ではなく、人間の本能のようなところで、それは生死を分けるようなものなのでしょう。個人の主義主張とは関係なく、それは、もう、どうしようもなく。

ですから、みなさんのなかで、一匹狼おおかみでやっていけない自分、仲間に入れてもらおうとヒクツイになる自分、ということに嫌気がさしているひとがいたとしたら、仲間に入れてもらいたいと思う気持ちは、あたりまえのことなのだと伝えたいです。それは、私たちの本能なのだから、と。

問題は、それが自分のほんとうに入りたいた「群れ」や仲間でないのに、そういう人間の本能に急せかされて、犬が上位の犬の機嫌をとろうとしてお腹なかを見せてひっくり返るような行動をとってしまうときの、

X

感、ですね。



まず言えるのは、生きるってそういう葛藤の連続ってこと。心から思っている言葉でないこと、相手を褒めるときも、自分がそう思っていたらいいんだけど、思ってもないのに、つい、相手の機嫌をとるようなことを言ってしまったたり、やってしまったときの問題。

そういう X に陥ってしまったら、それは若い頃はありがちなことなので、ああ、やっちゃったよー、しょうがないなあ、って、心のなかでためいきをつけていけばいいのです。まあ、しかたがないです。

でも、それはだれにもわからない。それがわかっているのは、あなたしかいません。あなたのなかで、自分を見ている目がある。いちばん大切にしないといけないのは、そしてある意味で、いちばん見栄を張らないといけないのは、いいかっこしないといけないのは、じつは、他人の目ではなく、この、自分のなかの目です。

さて、ここから大切なことです。

そのとき、ああ、やってしまったよーとか、しょうがないなあ、とか、ためいきついているひとはだれ？

だれよりもあなたの事情をよく知っている。両親よりも、友だちよりも、いわんや先生たちよりもあなたのことをすべて知っている。あなたが、そういうことをせざるをえなかった、あなたの人生の歴史についてもだれよりも知っている。しかも、あなたの味方。いつだって、あなたの側そばに立って考えてくれている。

そう。あなたの、ほんとうのリーダーは、そのひとなんです。

それはさっき私が言った、「自分のなかの目」、でもあります。同じひとです。そのひとにびったりついていけばいい。

自分のなかの、埋うもれているリーダーを掘り起こす、という作業。それは、あなたと、あなた自身のリーダーを一つの群れにしてしまう作業です。チーム・自分。こんな最強の群れはない。これ以上にあなたを安定させるリーダーはいない。これは、個人、ということですよ。

そして、群れというのは本来、そういう個人が一人ひとりの考えで集まることができるものであるべきだと思っています。個人的な群れ、社会的な群れ、様々な群れがありますが、それに所属する前に、個人として存在すること。

じゃあ、どうやったら個人でいつづけられるか。B 自分BのなかYに自分のリーダーを掘り起こすって、どうやって？

一つには、自分でも受け入れ難いことをやってしまったとき、ああ、やっちゃったよーとか、自分を客観視する癖をつけることです。批判する力をつける。様ざまに批判する力をつけるなかで、自分自身にももちろん、批判する目を向ける。批判って、難癖なんへせをつけるとか、文句ばかり言う、ということとは違います。正しい批判精神を失った社会は、暴走していきます。批判することは、もつとよくなるはずと、理想を持っているからできること。社会を愛する気持ちと反対のものではないのです。客観的な目を持つ。つまり、そういう視点から自分をも見つめる、キンニクウのようなものをつける。その目は自分をよく見ているから、自分にできないような無理な要求はしない。ちよつと頑張ったらできるはず、という線が引ける。頻繁にそういうことをしているうちに、それはできます。それを意識するということがつまり、今言うところの、掘り起こす、という意味。そしてその目が、あなたのリーダー的役割をするものになる。

(梨木香歩『ほんとうのリーダーのみつけかた』による。設問の関係上、改めたところがある。)

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

19、イが 20、ウが 21。

ア アキラめ

- ① 家屋がタイトウに取られる
- ② 条約をテイケツする
- ③ 時代の推移をテイカンする
- ④ 高齢者人口がテイゾウする
- ⑤ 景気のテイタイが続く

イ ヒクツ

- ① 写真のヒシヤタイになる
- ② 大臣をヒメンする
- ③ ヒソウな理解にとどまる
- ④ ヒガンを達成する
- ⑤ ヒキンな例を示す

ウ キンニク

- ① キンセンに触れる
- ② テツキン五階建てのビル
- ③ キンパクした国際情勢
- ④ キョウキンを開いて話す
- ⑤ ズキンをかぶって避難する



問二 傍線部A「感動のあまり涙ぐみます」とあるが、母親はなぜ涙ぐんだのか。その説明として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、22。

- (a) ヘレン・ケラーがいままでのようにかんしゃくを起こすことなく、穏やかな性格に変わっていったから。
- (b) ヘレン・ケラーがサリバン先生の言うことを聞き入れて、いままでのように我を張ることをやめたから。
- (c) ヘレン・ケラーが、人間として生きていくうえで必要であるルールのひとつを、身につけはじめたから。
- (d) ヘレン・ケラーは耳が聞こえず、目も見えなかったのだが、ものには名前があることを理解したから。
- (e) ヘレン・ケラーは空想の世界に逃げ込んでいたのだが、ようやく現実の世界に戻ってきてくれたから。

問三

空欄

X

に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

23。

- (a) 自己満足
- (b) 自己中心
- (c) 自己疎外
- (d) 自己嫌悪
- (e) 自己犠牲

問四

空欄

Y

に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

24。

- (a) 倫理的に相手や自己を縛らず、考察することができる個人
- (b) 効率的に物事を考えず、自分のやりたいことができる個人
- (c) 画一的に自己を捉えず、多面的に振る舞うことができる個人
- (d) 理性的に物事を分析せず、感情を重んじることができる個人
- (e) 盲目的に相手に自分を明け渡さず、考えることができる個人

問五 傍線部B「自分のなかに自分のリーダーを掘り起こすって、どうやって？」とあるが、筆者はどのようにすればよいと考えているのか。その説

明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、25。

- ① 自分の考えにこだわることなく、他者の意見に耳を傾け、今ある自分を変えていくようにすればよい。
- ② 自分でも受け容れ難いようなことは行わず、ありのままの自分を大切にしていこうようにすればよい。
- ③ 自分を決して甘やかすことなく、わずかな欠点をも見つけて、自分をなじり続けるようにすればよい。
- ④ 自分を対象化して捉えたうえで、自分に妥当な要求を突きつけ、自分を鍛えていくようにすればよい。
- ⑤ 自分の中に埋もれている潜在能力を引き出して、自分の可能性を無限に広げていくようにすればよい。

問六 本文の内容と合致しているものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、26。

- ① これからは他者や社会に依存するのではなく、自分を強く鍛えて、自分だけで生きていかなければならない。
- ② 自分のことだけを考えるのではなく、自分が社会のリーダーである自覚を持って振る舞わなければならない。
- ③ 他者を排除するわけではないのだが、自分のなかにある自分を見ている目を大切にしていかなければならない。
- ④ 自分のことは自分にしか分らないという現実をしっかりと見つけ、他者への甘えを捨てなければならない。
- ⑤ すぐに仲間の助けを求める自分を批判して、自分のできることから一つ一つやっていかなければならない。











